

英語科・英語活動

英語科・英語活動部 原 雄規 齋藤 一紀 高橋 洋介
研究協力者 津久井貴之

Ⅰ 英語科・英語活動における真正な学びについて

実生活と関わる目的や場面、状況において、自分の考えや気持ちを相手と伝え合い、コミュニケーションを図る楽しさを実感する学び

本校では、「共によりよい生活を創造する子ども」の育成を目指している。「共によりよい生活を創造する子ども」の育成をするためには、英語科・英語活動を学ぶ本質的な意義である「英語を用いて自分の考えや気持ちを相手と伝え合い、互いのことを分かり合うこと」が欠かせない。なぜなら、他者と共によりよい生活を創造していくためには、他者とよい関係を築くことが不可欠であり、そのために、自分の考えや気持ちを伝え合い、互いのことを分かり合う必要があるからである。英語科・英語活動の学習では、自分の考えや気持ちを伝え合う際に困難さの伴う英語を用いることで、子どもたちは、何とか自分の考えや気持ちを相手と伝え合おうと、試行錯誤を繰り返しながら言語活動に取り組む。そして、英語を用いて相手に分かるように伝えられたり、相手の話していることを分かったりする経験をするすることで、徐々に相手と分かり合うことができるようになり、共によりよい社会を創造していくことにつながっていく。

本校英語科・英語活動では、この本質的な意義を基に、英語科・英語活動における真正な学びを「実生活と関わる目的や場面、状況において、自分の考えや気持ちを相手と伝え合い、コミュニケーションを図る楽しさを実感する学び」とした。英語科・英語活動の問題解決的な学習では、実生活と関わる目的や場面、状況において、自分の考えや気持ちを英語で伝えたいという思いや、他者の考えや気持ちを知りたいという思いから、単元の課題（以下、Unit Goal）を設定する。この Unit Goal を解決するために、試行錯誤を繰り返しながら言語活動に取り組み、自分の考えや気持ちを伝え合えるようになっていく。そして、新出や既習の英語表現を用いながら、コミュニケーションを図り、Unit Goal を解決していく。このような学びを通して、真正な学びが実現され、コミュニケーションを図る楽しさを繰り返し実感することによって、英語科・英語活動を学ぶ本質的な意義に迫ることができると考えた。また、真正な学びは、子どもたちが自分の考えや気持ちを相手と伝え合う際に生じる困り感を基にして行われる。子どもたちが、試行錯誤を繰り返しながら言語活動に取り組み、困り感を解消していくことは、伝わったことや理解できたことに対する楽しさを実感することができ、相手と分かり合いたいという思いが高まることにつながっていく。

これらのことから、英語科・英語活動における真正な学びを通して、「共によりよい生活を創造する子ども」を育成することとした。



＜図Ⅰ 英語科・英語活動における真正な学びのイメージ＞

2 研究の方向

昨年度、本校では、問題解決的な学習において、真正な学びのデザインを行ってきた。実践を行う中

で、課題となる以下のような姿が見られた子どもは、英語科・英語活動を学ぶ本質的な意義に迫ることが難しかった。このような課題となる姿の要因を、以下のように分析した。

	課題となる姿	その姿の要因
話し手	・ 英語を用いて、自分の考えや気持ちを伝えることに困難さを感じて、詳しく伝えていない姿 ・ 聞き手に自分の考えや気持ちが容易に伝わった際に、さらに自分の考えや気持ちを詳しく伝えていない姿	・ 伝えることに困難さを感じた際に、解決の見通しや解決方法を見付けられず、伝えることをあきらめてしまう。（「粘り強さ」の不足） ・ 伝わったことに満足してしまい、さらに自分のことを知ってもらいたいという思いをもてていない。（「目標への情熱」の不足）
聞き手	・ 英語を用いて、友達の考えや気持ちを理解することに困難さを感じても、聞き返さずに、ただ頷いて聞いている姿	・ 他者の考えや気持ちを推測しながら聞くことをあきらめてしまう。（「粘り強さ」の不足） ・ 他者の考えや気持ちを知りたいという思いをもてていない。（「目標への情熱」の不足）

そこで、本年次は、「共によりよい生活を創造する子ども」の育成を目指し、真正な学びの中で、「目標への情熱」や「粘り強さ」を発揮する姿がさらに現れるように、研究を進めていくこととした。

3 研究内容

(1) 「目標への情熱」と「粘り強さ」が発揮された姿

本校英語科・英語活動における「目標」とは、自分の考えや気持ちを伝え合い、コミュニケーションを図る楽しさを実感することに関する Unit Goal を解決することである。Unit Goal は、単元の「つかむ」過程において、子どもたちとともに設定する。そして、Unit Goal の解決に向けて、子どもたちは単元を通して「目標への情熱」と「粘り強さ」を発揮し、「追究する」過程や「まとめる」過程において、コミュニケーションを図る楽しさを実感する。

「目標への情熱」が発揮された姿

話し手：コミュニケーションを図る楽しさを実感することに向けて、

知っている英語表現を組み合わせ、何とか自分の考えや気持ちを伝える姿

自分から話しかける姿

聞き手の目を見ながら考えや気持ちを伝える姿

ジェスチャーを用いて考えや気持ちを伝える姿

聞き手：コミュニケーションを図る楽しさを実感することに向けて、

話し手の目を見ながら考えや気持ちを聞く姿、

"Good!"や"Me, too.", "Do you like~?" 等を用いて反応・質問をしながら考えや気持ちを聞く姿

「粘り強さ」が発揮された姿

話し手：聞き手に自分の考えや気持ちが容易に伝わった際に、英語表現を加える姿

聞き手に自分の考えや気持ちが伝えられなかった際に、再度伝える姿

自分の考えや気持ちを伝える英語表現が分からない際に、グループや学級全体で英語表現を相談する姿

聞き手：話し手の考えや気持ちが分からなかった際に、分からない英語表現について尋ねたり、
"One more."等を用いて、再度伝えるよう促したりする姿

(2) 学びのプロセス

本校英語科・英語活動の課題となる姿から、「目標への情熱」と「粘り強さ」が発揮された姿までの学びのプロセスを、以下のように捉えた。

過程	学びのプロセス		
つかむ	- この課題は、自分のことを相手に伝えられたり、相手のことをたくさん知ることができたりして、楽しそうだ - Unit Goal の解決に向けて、学習の流れが分かったぞ		・Unit Goal の解決への思いを高める
追究する	話し手	聞き手	・考えや気持ちを伝え合う際の困り感をもつ
	自分の考えや気持ちを伝える英語表現が分からないぞ	- 相手の話していることが分からないぞ - どう質問したらいいのだろう	
	友達と相談したり、モデル動画を見たりして英語表現や発音を確認したいな	分からなかったことや英語表現を友達に聞いてみよう	・困り感を解消しようとする
	友達と話し合ったことを生かして、もう一度話してみたいな	友達と話し合ったことを生かして、もう一度話してみたいな	・困り感を解消できたことを実感する
まとめる	うまく自分の考えや気持ちが伝わってうれしいな	相手の話していることが分かって楽しいな	・コミュニケーションを図る楽しさを実感する
	- 学習した英語表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝えるぞ - 考えや気持ちを伝え合うと、楽しいな - 次の単元でも、英語をたくさん話して、相手のことを知りたいな		・コミュニケーションを図る楽しさを実感する

<図2 本校英語科・英語活動の「目標への情熱」と「粘り強さ」を発揮できる学びのデザイン>

本校英語科・英語活動における真正な学びの実現によって、「目標への情熱」と「粘り強さ」を発揮する姿が表れる。まず、【つかむ】過程では、ALTと教師のモデルを見聞し、単元の目的や場面、状況を把握することで、Unit Goal の解決への思いを高める。そして、【追究する】過程では、自分の考えや気持ちをうまく伝えられなかったり、相手の考えや気持ちが分からなかったりし、困り感をもつ。そこで、グループや学級全体で分からない英語表現について話し合ったり、英語の音声・リズムに慣れ親しむ活動に取り組んだりすることで、自分の考えや気持ちを伝えようとしたり、話し手の気持ちを分かろうとしたりする「粘り強さ」が発揮される。そして、再度、自分の考えや気持ちを相手と伝え合う。このような学びのプロセスにおいて「目標への情熱」を発揮する。さらに、【まとめる】過程では、これまでに学習した英語表現を用いて、Unit Goal を解決していく。以上のような学びのプロセスを実現するため、真正な学びのデザインを行っていく。

(3) 真正な学びのデザイン

①英語科・英語活動の本質的な意義に迫る学び

本校英語科・英語活動における真正な学びの実現に向けて、Enjoy Communication Sheet を用いて、教師が、子どもたちと一緒に、英語を学ぶよさや楽しいコミュニケーションを明らかにす

Enjoy Communication Sheet			
各学期のはじめと終わり	英語を学ぶよさ		楽しいコミュニケーション
	- 英語を勉強すると、外国の人とコミュニケーションをすることができると、外国の人と友達になれる。 - 自分の気持ちを伝えられる。		- たくさんの友達と話をしたり、ギャグを話したりする。 - 笑顔を話をする。 - 学習した英語をどんどん使ってみる。
	おすすめ文房具を紹介しよう	英語クイズ大会をしよう	お気に入りのランチを紹介しよう
	- 友達のおすすめの文房具を知ることができた。 - 自分と同じはさみを持っていて話せなかった。 - 青色の鉛筆が人気だということが分かった。	- みんなでクイズ大会ができて、楽しかった。 - 目を見ながら話したり、話す早さや声の大きさに気づけた方が、クイズを楽しめることが分かった。	- 友達がいらない食べ物が好きだと分かった。 - 自分と同じ好みの友達がいいた。 - 多くの友達がうどんが好きだということが分かった。
【まとめる】過程		単元 1	単元 2
		単元 3	

<図3 英語を学ぶよさや楽しいコミュニケーションについて考える際に用いる Enjoy Communication Sheet の例>
-英3-

る機会を各学期のはじめと終わりに設定する。また、各単元の「まとめる」過程において、「コミュニケーションを通して楽しめたこと、相手について分かったこと」を話し合うことによって、自分の考えや気持ちを相手と伝え合い、コミュニケーションを図る楽しさを実感することができる。

②当事者意識のある学びや現実の生活に近付ける学び

本校英語科・英語活動における真正な学びの実現に向けて、子どもたちの実生活と関わる目的や場面、状況を設定する。「実生活と関わる目的や場面、状況」とは、以下の条件を満たすものとする。

- ・現実の日常生活や学校生活で想定されるコミュニケーションを図る目的や場面があること
- ・用いる英語表現が子どもたちの実態に適していること
- ・子どもたちが本当の自分の考えや気持ちを伝え合いたいと思える内容があること
- ・考えや気持ちを伝え合いたい相手がいること

③「目標への情熱」と「粘り強さ」が生まれるプロセスのためのデザイン

過程	学習活動	学びのプロセス
つかむ	自分の考えや気持ちを伝えたい、他者の考えや気持ちを知りたいという思いを基に、Unit Goalを設定する	・Unit Goalの解決への思いを高める
追究する	本時に伝え合うことの見通しをもつ <Try Time> 知っている英語表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合う (Try1) ・英語表現についてグループや学級全体で話し合う ・英語の音声・リズムに慣れ親しむ (Step Up) 英語表現を用いて、再度、自分の考えや気持ちを相手と伝え合う (Try2) Unit Goalの解決状況の振り返りをする ※点線内部は、単位時間ごとに繰り返し行う	・考えや気持ちを伝え合う際の困り感をもつ ・困り感を解消しようとする ・困り感を解消できたことを実感する ・コミュニケーションを図る楽しさを実感する
まとめる	学習した英語表現や既習の英語表現を用いてコミュニケーションを図り、Unit Goalを解決する Unit Goalの解決状況の振り返りをする	・コミュニケーションを図る楽しさを実感する

英語表現について話し合ったり、英語の音声・リズムに慣れ親しんだりする Try Time の設定

本校英語科・英語活動の問題解決的な学習において、自分の考えや気持ちを伝えたいという思いや他者の考えや気持ちを知りたいという思いをもてるようにするためには、子どもたちが困り感を解消し、伝えられるようになったり、話している内容が分かたりする経験を積むことが必要である。そこで、「追究する」過程の一単位時間内に Try Time を設定する。この学習指導の工夫では、まず、Try1として、自分の知っている英語表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合う。そこでもった困り感を基に、グループや学級全体で協働して Step Up に取り組む。Step Up では、子どもたちが、自分の考えや気持ちを伝え合う際に必要な英語表現について話し合う活動や、自分の考えや気持ちを伝える際に用いる英語表現の音声・リズムに慣れ親しむ活動を設定する。その後、Step Up を生かして、Try2として、再度他者と自分の考えや気持ちを伝え合う。Try2 では、子どもたちが相手を替えて、繰り返し自分の考えや気持ちを伝え合う活動に取り組むことで、困り感が解消されたことやコミュニケーションを

図る楽しさを実感できるようにする。

具体例：３年「This is for you. ～がんばっているきみにありがとう」

①Try1

友達にライオンのイラストが何個ほしいか聞きたいのだけど、どのように聞けばいいのだろう。大きさも知りたいな。



②Step Up

友達にライオンのイラストが何個欲しいか聞きたいのだけど、どのように聞けばよいのかな。

イラストの大きさを聞くときはどうすればよいのだろう。big と small が使えそうだけど。



数を聞く時は "How many?" が使えそうだね。

"Big or small?" と言えば、欲しいイラストの大きさを聞けそうだね。



"How many?"や"Big or small?"を使えば、数や大きさを聞けそうだ。もう一度友達と話してみたいな。

※グループで分からなかった英語表現については、学級全体で話し合う。また、英語の音声・リズムに慣れ親しむ活動に取り組む。

③Try2

I want lions.

Two.

Big.



What do you want?

How many?

Big or small?

友達の欲しいイラストについて知ることができて楽しいな。

4 授業実践 6年「My Junior High School Life～中学校生活の抱負を伝えよう～」

(1) 単元の学びのデザイン

中学校生活の抱負とその理由について、"I want to～. I like～. I'm good at～."等の英語表現を用いて、附属中学校のALTに、分かりやすく工夫しながら伝える資質・能力を育成できると考え、次のように、単元を構想した。

目標	附属中学校のALTと親しくなるために、相手に伝わるように工夫しながら、中学校生活の抱負とその理由の発表をすることを楽しむことができる。	
言語事項	My name is～. I'm～. I like～. My favorite ～ is ～. I can～. I ～ everyday/on weekends. ～ is my brother/sister. I want to /study ～ hard/join the ～ club/sports day/culture festival/ ball games tournament. I want to be a～. I'm good at ～. It's～.	
過程	時間	学習活動
つかむ	1	○ケアン先生の自己紹介や中学校生活の抱負とその理由を知りたいという要望を伝える動画を視聴し、試しの活動を通して単元の課題（Unit Goal）をつかむ。 Unit Goal ケアン先生と親しくなるために、中学校生活の抱負とその理由を分かりやすく伝えることを楽しもう
追究する	1 1 1 1	○"I'm～." "I like～." "～is my brother/sister."などの英語表現を用いて、自己紹介をする。 ○学校行事を表す英語表現や"I want to ～."を用いて、中学校生活の抱負を伝える。 ○"I want to be a ～." "I'm good at ～." "It's ～."などの英語表現を用いて、中学校生活の抱負を伝える。 ○"I'm～." "I like～." "I want to ～."などの英語表現を用いて、自己紹介や中学校生活の抱負とその理由を伝える。
まとめる	1 1	○自己紹介や中学校生活の抱負とその理由を伝える英語表現を書き写す。 ○ケアン先生に自己紹介や中学校生活の抱負とその理由の発表をする。

なお、本単元において、子どもが、「目標への情熱」と「粘り強さ」を発揮できるようにする。そのための学びのプロセスを生み出せるように、学びのデザインを次のように具体化して行った。

学びのプロセス	学びのデザイン
・中学校生活の抱負とその理由を伝え合う際の伝えられない困り感をもつ ・中学校生活の抱負とその理由を伝えられない困り感を解消しようとする ・中学校生活の抱負とその理由が伝えられない困り感が解消されたことを実感する ・中学校生活の抱負とその理由を伝え合う楽しさを実感する	Try Time の設定 ・自分の知っている英語表現を用いて、中学校生活の抱負とその理由を伝え合う (Try1) ・分からなかった英語表現や伝えられなかったことをグループや学級全体で話し合う。ALTの音声動画を用いて発音・リズムを確認する (Step Up) ・英語表現を用いて、再度相手を替えて、中学校生活の抱負とその理由を伝え合う (Try2)

単元において、「目標への情熱」と「粘り強さ」が発揮された姿の具体は、以下のとおりである。

「目標への情熱」が発揮された姿

目標：ケアン先生と親しくなるために、中学校生活の抱負とその理由を伝えることを楽しむという課題の解決

話し手：知っている英語表現を組み合わせて、何とか中学校生活の抱負とその理由を伝える姿

自分から話しかける姿、聞き手の目を見ながら伝える姿、ジェスチャーを用いて伝える姿

聞き手：話し手の目を見ながら中学校生活の抱負とその理由を聞く姿

"Good!"や"Me, too." , "Do you like~?"等を用いて反応・質問をしながら話を聞く姿

「粘り強さ」が発揮された姿

話し手：聞き手に自分の中学校生活の抱負とその理由が容易に伝わった際に、英語表現を加える姿

聞き手に自分の中学校生活の抱負とその理由が伝わらなかった際に、再度伝える姿

自分の中学校生活の抱負とその理由を伝える英語表現が分からない際に、グループや学級全体で英語表現を相談する姿

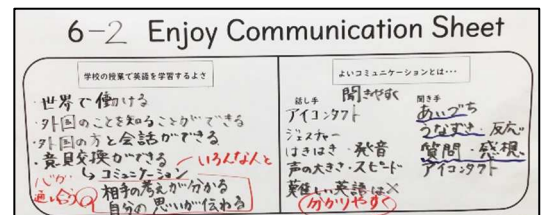
聞き手：話し手の中学校生活の抱負の理由が分からなかった際に、分からない英語表現について尋ねたり、"One more."等を用いて、再度、中学校生活の抱負とその理由を伝えるよう促したりする姿

(2) 学びの実際 ※Gは抽出児、Cはその他の子ども、Tは教師、 は目標への情熱、 は粘り強さを発揮した子どもの姿

【本単元における、子どもたちや抽出児Gの学び】

①事前

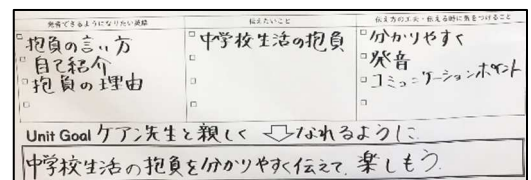
3学期の最初の授業において、子どもたちは、英語を学ぶよさや楽しいコミュニケーションについて話し合った。グループの話合いにおいて、Gは、「外国の人と話せる」「マスクだけど、目元だけでも笑顔で話す」等と発言していた。学級全体の話合いにおいて、「コミュニケーションをとって意見交換ができる」という意見が出た際に、教師は、コミュニケーションを図ることのよさについて問いかけ、子どもたちは、「相手の考えが分かる」「自分の思いが伝わる」等の英語を学ぶよさに気付いた。そして、教師は、子どもたちから出た意見を基に、Enjoy Communication Sheetにまとめた。(図4)



＜図4 子どもたちと作成した Enjoy Communication Sheet＞

②「つかむ」過程（第1時）

第1時では、附属中学校のALTであるケアン先生の"I'm from Jamaica.", "I like reading books."等の出身や趣味を伝える自己紹介や「みんなのことを知って親しくなるために、中学校生活の抱負とその理由を話して欲しい」という要望を見聞きした後、試しの活動を行った。それから、本単元においてできるようになりたいことを 振り返りシート (Try シート) に記述し、学級全体で話し合った。話合いでは、「中学校生活の抱負を分かりやすく伝えられるようになりたい」「抱負とその理由をもっと詳しく伝えられるようになりたい」「ケアン先生と親しくなりたい」といった意見が出た。これらの意見を基に、Unit Goalを設定した。(図5) Gは、試しの活動において、"My name



＜図5 子どもたちと設定した Unit Goal＞



＜図6 試しの活動を行うG＞

is ～（Gの名前）. I like...読書ってなんて言うんだろ。books...勉強...study, 部活ってなんて言うんだろ。sports. 行事は..."と名前と趣味は伝えられたものの、中学校生活の抱負とその理由については、伝えられず、日本語で友達に助言を求めている。

（図 6）そこで、Gは、図 7 のように記述していた。

時間	この学習でできるようになりたいこと（自分の課題）
1	中学の抱負をくわしく英語で伝えたりハッソリとし、ガリと書えるようにしたい。

<図 7 第 1 時の G の Try シート>

③「追究する」過程（第 2～5 時）

子どもたちは、第 2 時、"My name is～." "I like～."等の英語表現を用いて、自己紹介をし、第 3 時では、"What's your goal in junior high school?" "I want to～."の英語表現を用いて、中学校生活の抱負を伝え合った。Gは、第 2 時の自己紹介を伝え合う際、Try Time の中で、好きなことである「読書」が伝えられない困り感をもっていた。その後、友達から助言を受けることで、最後には、"My name is ～（Gの名前）. I like books. I can cooking. I read books every day. ～（Gの兄の名前）is my brother."と伝えていた。また、第 3 時の中学校生活の抱負を伝え合う際、"study math hard."という語順や"join"の発音に困り感をもっていた。その後、相手を替えて繰り返す中で、最後には、"I want to study math hard. I want to join the music club. I want to sing well."と伝えていた。そして、Gは、図 8 のように記述していた。

時間	自分のめあて	自分のめあての達成度	分かったことやできるようになったこと もつてできるようになったこと	友達のことと分かったこと 楽しかったこと
2	くわしくハッソリと自己紹介ができよう。	① B C	いつも自分から話さない所が、友達の話を聞いて、自分から話せるようになった。	友達の話を聞いて、自分から話せるようになった。
3	中学校生活の抱負を自分から伝えよう。	① B C	自分から話せるようになった。友達の話を聞いて、自分から話せるようになった。	友達の話を聞いて、自分から話せるようになった。

<図 8 第 2・3 時の G の Try シート>

第 4 時、子どもたちは、はじめ

に、"I want to join the basketball club. I'm in a basketball club now. I like basketball. "等の J T E が小学生だった頃の中学校生活の抱負とその理由を伝えるモデルを見聞きした。次に、モデルで話されていた内容について話し合い、本時のめあてとして「抱負の理由をくわしく英語で伝えられるようになる」を設定した。その後、J T E は、抱負の理由に用いることができる英語表現について、A L T の後に続いて発音するよう促した。そして、Try1 として、グループ内でペアを作り、中学校生活の抱負とその理由を伝え合うよう促した。Gが話し手として伝えている様子は、以下のとおりである。

C I : "What's your goal in junior high school?"
G : "I want to study math hard and (3 秒沈黙)
I want to join the music club."
C I : "Why?"
G : "I... I'm not good at math. (数秒間あけて) I like sing."
C I : "OK."



<図 9 ペアに伝えている G>

このように、Gは、知っている英語表現を用いて、何とか自分の抱負の理由を伝えていた。（図 9）この姿は、話し手の「目標への情熱」を発揮した姿と言える。

次に、J T E は、Step Up として、英語で伝えられなかったことについて、グループ内で話し合うよう促した。G のグループでは、「テストで上位をとれたらすごいから」「お姉ちゃんが楽しそうだったから」という英語が分からないという意見が出たが、Gは、自分の抱負の理由について発言することはなかった。この姿は、円滑に言えないことの困り感があったものの、自分の抱負の理由を伝える英語表現に対する困り感はなかったと考えられる。その後、学級全体で伝えられなかったことについての話し合いをした後、J T E は、Try2 として、相手を替えて再度、中学校生活の抱負の理由を伝え合うよう促した。G が聞き手として、友達の抱負の理由を聞いている際の様子は、以下のとおりである。

C2: "I want to..." 「参加する」って何だっけ。
 G: "join" (話し手の目を見ながら)
 C2: そうだ。"I want to join *Akagi orienteering*, because I like (数秒間あけて) nature."
 G: ん。"nature." って何。
 C2: 自然だよ。自然が好きだってこと。
 G: "OK."



<図 10 ペアの話をしている G>

このように、G は、友達の前で自分の理由を聞いて、分からない英語表現について友達に尋ねていた。(図 10) 一方で、G が話し手として、相手を替えて伝えた際には、英語表現を加えて理由を詳しく伝えることはなかった。これらの姿は、聞き手としての「目標への情熱」と「粘り強さ」を発揮した姿と言える。しかし、話し手としての「粘り強さ」を発揮している姿は見られなかった。

第5時、学級全体で相手を替えて、自己紹介、抱負とその理由を繰り返し伝え合った。G は、伝え合うごとに、より円滑に、はっきりとした発音で伝えられるようになっていったが、英語表現を加えて抱負の理由を詳しく伝えることはなかった。

④「まとめる」過程 (第6時～第7時)

第6時、子どもたちは、自己紹介、抱負とその理由を書き写し、ケアン先生に分かりやすく伝えられるように、グループの友達と繰り返し伝え合った。書き写す際、G は、音楽部に入りたい理由として、"I like singing."の後に、"It's fun."を書き加えていた。

第7時、子どもたちは、グループの友達と繰り返し、伝え合った後に、ケアン先生に、自己紹介、抱負とその理由を伝えた。G が、ケアン先生に伝えた内容は以下の通りである。

G: "Hello."
 T: "Hello."
 G: "I'm ~ (G の名前). I like books. I can cook. (タブレットに目線を落として) I read books every day. ~ (G の兄の名前) is my brother. Do you know ~ (G の兄の名前) ?"
 T: "Oh, yes."
 G: "I want to study math hard, because I'm not good at math. (ケアン先生のほうを見る) I want to (数秒間あけて) join the music club, because I like singing. It's fun. OK ?"
 T: "OK." "Nice."



<図 11 ケアン先生に発表をする G>

このように、G は、自己紹介、中学校生活の抱負とその理由を聞き取りやすい声の大きさや速さで、伝えることができた。しかし、ケアン先生のほうを見ながら話せる時間は短かった。(図 11) そして、G は、図 12 のように記述していた。その後、学級全体で英語を学ぶよさについて話し合い、「分からない英語だからこそ、ちゃんと聞こうとする」「ケアン先生と気持ちを伝えられた」等の意見がでた。(図 13)

自分のため	Unit Goal や自分の課題について	この学習を通して感じた英語を学習するよさ
ケアン先生に会っての学習が楽しかった。 自分も頑張りたい。	達成度 (A B C) コメント 授業の時に先生の話を見ても、よく聞けなかった。 でも、先生の話を聞いて、自分も頑張りたい。 先生の話が面白かった。 先生の話が面白かった。 先生の話が面白かった。	先生の話が面白かった。 先生の話が面白かった。 先生の話が面白かった。 先生の話が面白かった。 先生の話が面白かった。

<図 12 第8時のGのTryシート>

これまでの学習を通して、自分の知っている英語表現を用いて何とか伝えようとする姿や、友達が伝えてくれたことに対して、"OK."と返答をしたり、分からない英語表現を尋ねたりする姿が見られた。これらの姿から、英語科・英語活動を学ぶ本質的な意義に概ね迫ることができ、中学校生活の抱負とその理由について、英語表現を用いて、附属中学校のALTに、分かりやすく工夫しながら伝える資質・能力が育成されたと考えられる。

＜図1-3 単元終了後のEnjoy Communication Sheet＞

単元を通して、「目標への情熱」や「粘り強さ」を発揮した姿が概ね現れた要因として、Try Timeを設定したことにより、単位時間ごとにもった困り感が解消され、コミュニケーションを図る楽しさを実感することができたためであると考えられる。

5 成果と課題

本校英語科・英語活動における問題解決的な学習の中で、共によりよい生活を創造する子どもの育成に向けて、「目標への情熱」と「粘り強さ」を発揮する姿が現れるための学びのプロセスと、そのプロセスを生み出す学びのデザインについて研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

○成果

子どもたちは、話し手として、自分の考えや気持ちを伝えたいという思いをもち、聞き手の目を見ながら伝える姿が見られた。また、聞き手として、話し手の目を見ながら、考えや気持ちを聞く姿が見られた。これらの姿は、「目標への情熱」を発揮した姿と言える。これらの姿が表れたのは、子どもたちの「実生活と関わる目的や場面、状況」を設定したことにより、子どもたちが、本当の考えや気持ちを伝え合いたいという思いを高めることができたからである。

また、自分の考えや気持ちを伝える英語表現が分からない際に、グループや学級全体で英語表現を相談する姿が見られた。この姿が表れたのは、Try Timeを設定したことにより、子どもたちは、自分の考えや気持ちを伝えるために解消しなければならない困り感を明確にすることができ、協働して困り感を解消しようとしたからである。

○課題

子どもたちの活動の様子からは、声が小さくなってしまったり、恥ずかしそうに伝えたりする姿が見られた。その要因として、Try Timeを通して新たに分かった英語表現の定着を図るための活動や、英語の音声・リズムに慣れ親しんだりする活動が不足していて、英語表現の音声面に対する自信をもてないままコミュニケーションを図っていたことが考えられる。今後は、Step Upの内容を見直し、子どもたちが自信をもってコミュニケーションを図ることができる学びのプロセスやデザインについて研究を進めていきたい。

【参考文献】

- ・直山木綿子【監修】『小学校外国語教育の指導と評価』、文溪堂、2022年12月。
- ・サラ・マーサー、ゾルタン・ドルニエイ【著】鈴木章能、和田玲【訳】『外国語学習者エンゲージメント』、アルク、2022年3月。